

## 第4回 オホーツク東部減災対策協議会

### 議事概要

日 時：令和2年7月14日（火）13：30～14：30

場 所：斜里町ゆめホール知床 公民館ホール

出席者：斜里町長、清里町長、小清水町副町長、網走地方気象台長、陸上自衛隊第6普通科連隊第3科運用訓練幹部、北海道警察北見方面本部警備課長補佐、斜里警察署警備係長、斜里地区消防組合消防長、網走開発建設部長、オホーツク総合振興局副局長

#### 《議事内容》

- (1) これまでの経緯
- (2) 幹事会報告
- (3) 取組状況のフォローアップ
- (4) 情報提供
- (5) 意見交換
- (6) 今後のスケジュール

#### 【事務局から説明を踏まえた、各機関からの意見】

(斜里町)

- ・個々の住民が、早く情報を得て、早く行動に移し、住んでいる地域の避難先や避難ルートなどをしっかりと把握しておくことが重要である。
- ・斜里町、清里町、小清水町ともに防災マップを配布しているので、これにより状況を把握し、各々が意識を持ち、必要な行動に移すことが大事。
- ・ウトロ地区では、防災のためのワークショップを開催し、様々なシミュレーションのもとに実施した避難訓練について検証したうえで、地域としての防災計画を作成し各戸へ配布するなど、他の地域の模範となるような取組を実施している。
- ・ウトロ地区だけではなく、全ての地区で行えるよう、出前講座などにより周知していきたい。
- ・災害時の備えは重要であり、災害と停電は同時に起こるため、発電体制が弱まった場合に備え、ゆめホールや現在耐震改修工事を行っている役場庁舎に発電機を常設している。また、ポータブルの発電機についても、各地区の避難所への設置を進めたい。
- ・平成28年の台風の際は、職員が危険な思いをして直接河川の水位を測ったことがあったが、先程紹介のあった危機管理型水位計の設置により、そのようなことも

無くなり、情報を確実に把握できるようになり感謝している。

- ・河道内樹木の伐採は、高水敷が良い状態となって、洪水や冠水を防ぐことができるので大事である。

#### (清里町)

- ・斜里川は急流河川であり、今まで斜里町側で決壊しているが、清里町側では氾濫の懸念をしたことはあったが、決壊に至るまでの災害は発生していない。近年の大雨の状況の中、いつ災害が発生しても不思議ではないという意識を持ち、対応していくことが重要。また、支流からの流れ込みを制御していくことが重要。
- ・昨年、洪水ハザードマップを作成し、全戸配布して住民への説明会を1月から開催しているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け進捗していないことから、落ち着いた段階で再開したい。
- ・3年に一度の町民の総合防災訓練を8月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止し、来年開催する予定。
- ・避難所における新型コロナウイルス感染症対策として、ソーシャルディスタンスの実施や三密回避などの対応を徹底するとなると、従来の避難所スペースでは対応できないと考える。このため、避難所における訓練を秋に実施したい。
- ・清里町の大規模避難所は平地にあり、そこが冠水した場合を想定し、別の場所も検討している。
- ・直轄明渠であるウエンベツ川があるが、堤防などがなく、過去に越水しており、熊本の水害をみると、溢れるだけではとどまらないとの危機意識もあり、対策について、今後、開発建設部へ相談したい。
- ・住民の安心、安全に暮らしていける町づくりのために、様々な事態を想定しながら住民意識の向上に努めたい。

#### (小清水町)

- ・今年の冬に開催した、冬季の総合防災訓練での関係機関の協力に感謝。
- ・コミュニティ再生ということで、自主防災組織の設立に力をいれてきた。地域のコミュニティ力の再生による「逃げ遅れゼロ」を目指して、自主防災組織率が60%を超え、7月現在68%まであがっている。
- ・冬季の総合防災訓練の実施時には組織率30%程度だったが、危機意識の高まりと各地域の協力もあり、総合防災訓練に多くの参加者が集まったことが結果に結びついている。
- ・今後、訓練というよりは、コミュニティの行事のなかで自然と誘い合って集会に集まる、それが避難訓練となるような、日常から取組める訓練を行っていきたい。

- ・避難所について、一部浸水区域となる箇所もあるため、色々な箇所を避難所として行かなければならない。また、避難所の在り方を見直し、設営に関してもゾーンニングできるよう検討していくことが必要。
- ・この協議会での情報提供、地域にあった体制や流域での連携による体制づくりに協力をお願いする。

(北海道警察北見方面本部)

- ・自治体から貸与される防災マニュアルを元に、災害警備マニュアルを毎年更新している。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、避難所の数の変更などによる各自治体の防災マニュアルの変更が多くあると思うので、変更があった際は、北見方面本部警備課に情報提供をお願いする。
- ・自治体で実施している各種訓練に、大小問わないので参加要請して欲しい。

(北海道警察斜里警察署)

- ・広報、啓発訓練を中心とした訓練を継続する。
- ・関係機関との情報共有をし、災害に対し万全を期したい。

(斜里地区消防組合)

- ・3町の消防団で防災訓練を継続し、合同訓練を計画的に実施していくことが必要と考える。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・昨年度災害用ドローンを導入し、部隊へ情報発信のツールとして運用予定であり、今後は操縦者の操縦訓練を実施。
- ・災害派遣について、少しずつ考えが変わってきており、従前であれば自治体からの要請により災害派遣していたが、現在は自治体と連携し、自衛隊側から情報収集する場面もあることから協力をお願いしたい。
- ・各市町村の担当中隊について、自治体主催の防災訓練に積極的に参加し、情報交換を図りたい。

(網走地方气象台)

- ・網走管内の降水量は、北海道の太平洋側と比較すると断然少ないが、降っていない訳ではない。
- ・昨年度実施した普及啓発の取組については、今年度も継続して実施する予定であるが、新型コロナウイルス感染症の影響で取組が1ヶ月遅れている。

- ・今後、自治体、住民へ伝達する防災気象情報や津波等に関する普及啓発の取組について工夫が必要であると考えている。自治体、防災機関に協力をお願いする場合もあるためよろしくお願ひしたい。

(網走開発建設部)

- ・国土交通省では大規模な災害が発生した場合、自治体への災害支援を行う TEC-FORCE を組織しており、網走開発建設部でも、熊本へ1チーム派遣した。
- ・気候変動等の影響により激甚化する自然災害に対応した、真に事前の備えとなる抜本的かつ総合的な防災減災対策として、7月6日に第2回国土交通省防災・減災対策本部が開催され、総力戦で臨む防災・減災プロジェクトが取りまとめられた。
- ・この中では、気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、河川、下水道等による治水に加え、あらゆる関係者により流域全体で行う流域治水へ転換することとしている。
- ・今後は全国の一級河川流域全体で早急を実施すべき対策として、流域治水プロジェクトを本年度内に策定し、事前防災対策を加速していく考えなので、引き続き関係機関にはご理解、ご協力を願ひしたい。
- ・住民の生活基盤となっている住宅などの資産を守るのはハード対策だけが唯一の手段であることから、治水事業の推進に向けてご理解と協力を願ひしたい。

以上